

「そっとおとどけ」は匿名女性図書館司書による新聞です。

本の紹介や日々の情報など……

図書館をもっと身近に、本をもっと身近に、読むのが楽しく思っています。

さて、この日に書いたのが読者のみなさんに届くまでです。

春の頃は読書したいのですが、

3月といったら卒業の時、

この春から新しい生活を始めました。

何かに挑戦しようとしているあなたに

「読書から」をテーマにした本をお届け

します。

2009. 3



「永遠の出口」 森田節：著 集英社 76

『どんな未来もあり得たのだ』 社会人になたおじや、今さらを振り返ってこう言う。そんな彼女の小学校から高校卒業までの日々を描いた物語。

これから新しい世界にむかふ人・毎日ぐらゐと退屈……と思っている人に、

彼女が背中を叩いてくれます。

「この地球で私が生きる場所

——海外で夢を遂げた13人——」

朝日新聞 日曜版編集部：編 早稲田 1995

夢を遂げた13人だった13人の女性たちの

“自分らしい生き方”が語られた1冊。

彼女たちの生き方を讀み、自分の生き方を振り返る。

彼女たちを羨ましいと思う時、彼女たちの

ことを思い出すだろう。彼女たちに不安を感じた時は

この本を讀いてほしい。さと美良が書いてくから。

「鬼の橋」伊藤潤：著 福信館書店

K4154

時を止めた古時計は

冥界への入り口だった……。

卒業時代、父親の復讐と噂された実在の遺言書・

小野篁の少年時代を描いた時空ファンタジー。

時の花と時を超越し、今と昔の人々と成長して

いく夏の星の感動しました！

「レオパルディアのパラダイスゆき9曲バス

アムステルダムから」への旅路(たけなご)」

レオパルディア：著 三笠書房 K1378

毎日の生活の中で、物事が自分の思い通りにはいかないときに、悩む時つともの。つらい、おろこんでしまう。そんな時、この本を讀いてみよう。

さと文文夫と男のから、自分をみつめる1冊。

明日からは新しい旅へ……。

「たんぽぽ」かがく文芸文庫 1979

早稲田：文芸 北村 四郎：監修 福信館書店

私がたんぽぽを見かけると、思わす「かたはね」で読書しているのはたんぽぽが果敢たちにとてもよく似ているからかも知れません。

成長し、おどけとなり、おやめながら離れていく

小さな小さなたんぽぽの種たちの旅立ちの

物語です。

「蘇がわの玉女さま」白くろ・マコト：文

芸文館 1997

玉女にふさわしい行儀をたくさん習ち、次ぎはおりに

仕えているお侍のふりかたの物語。

ある日お侍にお供をさせられ、お侍と玉女は

だいた玉子もやうかいだった。玉女は蘇がわを

母に似た、御供をしはつ玉子に助けられたの

だが……。人はお供の御供をさるより大事な

ものがあることをこの本が教えてくれます。

「いっしょにもたらたのしいね」評論社 1993

1620600：文 1620600000：紙

ひとりぼっちのひとり、ひとりぼっちのひとりが友だちになった。おどきの世界を歩いたこと、ある日、ひとりぼっちの中、サカナが空へと旅立ちが、ふたりは入会した……。

「読んだよめた」と温かい気持ちにさせてくれる絵本です。

